1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 5682 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-3337

シャケ Zo くん

SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2017 年 2 月号　No.191

??なぜリボン??

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

北区では、バリアフリー基本構想の全体構想がだされ、地区別案の議論も積極的に提起されている。NPO 法人わくわくかんでは、昨年 5 月、赤羽会館小ホール階段の改善を、北区長宛に出しているが、それらの具体的な動きについて報告します。

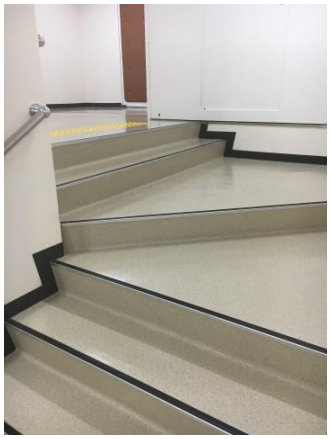
北区ですすむバリアフリー基本構想

赤羽会館小ホール階段の改善は持越し

北区のバリアフリー基本構想は、本格的な超高齢化社会の到来に対応するもので、高齢者、障害者等の物理的・社会的・制度的・心理的・情報面などのさまざまな社会生活上の障壁（バリア）を除去し、障害がない人と同じように自立した日常生活や活動ができる社会の実現をめざすもので、駅周辺の交通を軸とした旧構想よりはるかに多岐にわたって打ち出されている。議論も有識者・関係諸組織の協議会と区民部会による当事者参加の体制で検討がおこなわれ、まちあるき勉強会も実施されている。

赤羽地区の地区別構想でも「“気づき” を共有しカタチにするまち北区～だれもが健やかに安心して生活･移動できるユニバーサル社会をめざして～」の下、具体的な改善個所の精緻な計画案が 214 頁に個別具体的に記載されている。昨年 7 月には、赤羽地域 22 ヵ所のまちあるきが 2 回実施されている。

全体構想も地区別構想も大変意欲的なものであり、関係者の熱意がうかがえる。また、1 月 30 日まで北区のホームページでパブリックコメントの募集がされている。90 ページには、赤羽会館の小ホールの入口の改善が 2017～2020 年の短期間に実施予定となっている。これについては 6 月 17 日付で、わくわくかんに地域振興部地域振興課と赤羽会館管理事務所が共同で、「北区政へのご意見への回答について」があった。



「本来でありましたら、昨年完了しました耐震補強工事に合わせて対処すべきところ、小ホールは行動のステージ吹抜部の上に位置していることに加え、入口にスロープ等を設置するためのスペース確保が困難である等の理由で、手摺の追加設置にとどまっている状況です」というものだった。

赤羽会館の小ホール入口の改善のバリアフリー化について

わくわくかん副理事長　堀　利和

小ホール入口には 7 段の階段があるため、その改善を求めた「要望書」に対する区の回答について一言。4 階フロアーの下が講堂の吹抜になっているため、改善は「困難」とのことであったが、その後の斉藤りえ議員の議会質疑でも「ハード面での改善」は引き出せなかったと聞いているが、11 月議会でも再度早期改善申入れがされている。　階段巾は広く、半分をスロープのスペースにするのは充分。廊下が若干狭いので、階段の一番下の段に、常設のスロープを設置するのは無理としても、取り外し可能な移動式のスロープを用意することはできる。バリアフリー化や車イス利用者の避難時の安全を考えた時、なおさらである。この問題にあたった区の担当者の意図が理解できない。残念である。

＜わくわくかん 2 月予定表＞

- ✧　2 月　4 日（土）住宅セーフティーネットが目指すもの 13:30～（北とぴあ）北区地域精神保健福祉講座　無料
- ✧　2 月 10 日（金）はたらっくす 16:00～（自立訓練室）
- ✧　2 月 24 日（金）東京都精神福祉保健相談事業講演会 14:00～　（都庁第一本庁舎大会議室）無料
- ✧　2 月 27 日（月）現場協議会 16:30～（スカイブリッジ）
- ✧　2 月 28 日（火）家族懇談会 16:00～（自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5682 号

わくわく配食サービス

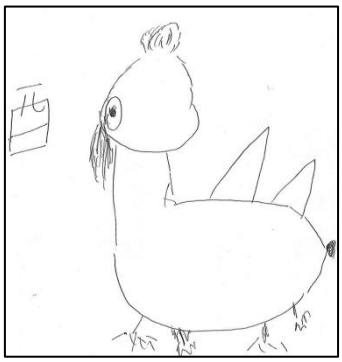
就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

～れんこん入り松風焼き～

【材料】4 人分
鶏ひき肉―200 g
れんこん―小 1/2 節
しいたけ―2 枚
長ねぎ　―1/3 本
みそ　　―大サジ 1/4
パン粉　―大サジ 4
酒　　―小サジ 1
油　　―適宜
けしの実（あれば）
小サジ 1

れんこん
栄養
でんぷん、ビタミン C、B1、B2、鉄、銅、タンニン、ムチン、食物繊維
旬の時期　　11～3 月
れんこんのかたい繊維をどう切るかで、食感が大きくかわる。シャキシャキ仕上げたい。
きんぴらなら、輪切り、ホクホク仕上げたい。
煮物なら乱切りがおすすめです。
また、れんこんは、せき止めの効果もあるそうです。

【作り方】
① オーブンを温めておく。
② れんこんは粗いみじん切りにし、酢水にさらす。
③ ②をさっとゆでてザルにあげ、水気をきっておく。
④ しいたけ、長ねぎはみじん切りにする。
⑤ ボウルに鶏ひき肉、③、④、みそ、パン粉、酒を入れ、混ぜ合わせてよく練る。
⑥ 温めておいた鉄板に油をしき、⑤を平らにつめて、上にけしの実をまぶしてオーブンで焼く。



自転車配達の苦労

狭い道路や一方通行に不可欠

寒い冬の日の配達の大変なことを書いてくれと頼まれたのですが、冬でも夏でも雨でも大変なのは自転車配達だけである。

配達の主は自動車で、北区には一方通行や狭い道が多いので自動車では効率の悪いところを自転車で配達しているのである。夏は猛暑で炎天下の中を自転車で走って行くことになる。冬は冷たい北風の中風をきって走って行くのである。雨の日の夏はレインコートの中が蒸し風呂である。冬は手や足が凍りつきそうになる。雨の日の夏は脱ぎようがないから帰って来るとシャツはびしょびしょである。

冬は私などヒートテックを二枚重ねで着ているがそれでも身体が冷えきってしまう。
自転車配達にとって良い気候の時期はわずかである。というのも最近は春とか秋を感じる間も無く夏や冬が来てしまう。最近は自動車も２台体制が整い以前よりずいぶん自転車配達も減ってきたのであるが、それでも配達の効率を考えると自転車配達を無くすことはできない。また自転車は小回りがきくとか使い勝手がいいので使わない訳にはいかない。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5682 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

＜プログラム紹介！＞

９０分散歩　王子駅周辺

昨年 12 月から始まった新プログラム「90 分散歩！」寒空の下、初回は王子周辺を散歩しました。「90 分も歩けるかな？」とおっしゃっていた方もいましたが、全員無事完歩が出来ました。
王子周辺の様々なゆかりの地を訪れ、職員さんが色々と説明してくれて、改めて「そうなのか」と思いつつ、あっという間に 90 分がすぎました。90 分歩くと、かなり汗ばみました。歩いていた時に、ウグイスを見つけたりもでき、とても充実感のあるプログラムでした。
訪れた所を１つ上げますと、名主の滝公園（上の写真）では、紅葉がうつくしく、滝も素晴らしかったです。次回の散歩も、メンバー一同楽しみにしております。

㊙さんの似顔絵コーナー

この男性は誰でしょうか？
答えは来月号です！

１月号の答え

正解は歌手で俳優の福山雅治さんでした。

＜わくわくかん忘年会報告＞

ひびきは、OB、OG を含め約 20 名が参加しました。
テーブル２つに分かれ、片方のテーブルは食欲おうせいチームになり、30 分経らずでテーブルがキレイになりました。
料理が美味しかったのも拍車をかけたようです。
もう片方のテーブルはまだ残っていました。
忘年会も一息ついた所で、出し物の時間になりました。
我らがひびきーずはハンドベルとパーフェクトヒューマンのショートバージョンを披露しました。
ハンドベルは練習の成果が出てキレイに奏でられました。

ひびき　クリスマス会

昨年の 12 月 16 日にクリスマス会をしました。
前回のクリスマス会に比べて参加人数が多く、20 数名でした。
今回のクリスマス会は、料理が手作りで大変だったけど、とても美味しく頂きました。ケーキ、温野菜、唐あげ、ポテトを楽しみながら作りました。そして、会食、ビンゴによるプレゼント交換、その中で自分自身の物を当ててしまったり（やりなおしましたが）スタッフＫさんだけが中々当たらず・・・。あと、盛り上がったのは「流行語大賞」で、大賞は「ボス」（理由は察して下さい）と 2 位は「ダイエット部」でした。
いつもより増して楽しいクリスマス会でした。
（O&O&F）

◀お正月の過ごし方 2017▶

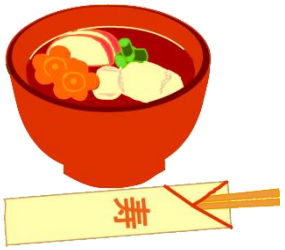
ひびきのメンバー＆スタッフからお正月をどのように過ごしていたか聞いてみました。
お餅を 1～3 個食べた人は７人、4～6 個食べた人は３人、7～9 個食べた人は３人、10 個以上食べた人は３人でした。

していた事	人数(人)
寝ていた	10
食べていた	10
初詣に行った	7
紅白歌合戦を見ていた	11
初夢を見た	3
帰省していた	3
正月セール（初売り）に行った	2
テレビを見ていた	14
箱根駅伝を見ていた	6

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5682 号

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 5682 号

就労移行支援事業
リボーンプロジェクト
〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888



新年会で語る「新年の抱負」

2017 年の新年最初の研修では、新年会を行いました。席を手早く模様替えする一方で、手分けをしつつお雑煮を準備しました。鶏肉と大根・ニンジンを具に、すまし仕立てのお雑煮で、大変おいしく仕上がりました。

各席ごとにお雑煮と甘味を配膳し、準備が仕上がったのが午前 11 時頃。みんなで歓談しながらお雑煮をいただきました。

お雑煮を食べ終わった後には、研修らしくそれぞれが新年を迎えての抱負を発表しました。紙に記した抱負を発表する形で、皆敬遠したりすることなく、スタッフを含め新年にかけるそれぞれの思いを述べていました。就労移行支援事業所なので当然といえば当然なのですが、就職を最大の目標にすえたものが多かったです。

「一年の計は元旦にあり」という言葉もありますが、新年の最初に皆で協力してお雑煮会を準備し、新年にかける抱負や思いを交換することができたのは、大変良かったです。

今年の目標

・今度こそ、うるおいのある生活を！
ゴールじゃないんだ、スタートなんだ。(O・U)
・今年はリボーンに極力通い、再就職します。(K・T)
・生活のリズムを整える。～朝は 7 時までに起きて、夜は 10 時半くらいに早めに寝る～(K・H)
・労務関係の勉強を再開する。
今後のキャリアアップをみすえて、PSW のスキルアップを行う。出会いを大切に、人とのつながりを強くし、プライベートを充実させる。(F・K)
・生活面：規則正しい生活を維持すること。
笑顔の練習と挨拶の練習。就職麺：得意な面を伸ばす。(K・K)
・周りの人を幸せにできる人間になりたいです。
資格を二つ以上取ります！上半期の内に就職します。(T・H)
・今年は就職の年なので、それまでに調子を安定させていきたい。昨年はあまり調子が悪くて資格の勉強ができなかったので、少しずつ勉強を再開していきたい。(I・Y)
・一人ぐらしなので体調管理に気を付けて。(H・K)
・今年は酉年なので就職を中心に、とりのように大きく飛躍できるようがんばります。(T・T)

・リボーンにお世話になり（利用期間 2 年間）最後の年で就職に向け取り組みます。
今まで第一段階、週 3 出勤で生活のリズムを作り・第二段階として週 5 出勤で就職の週 5 勤務に対応・第三段階として具体的、実習や就職活動の実施。(S・H)
・体調管理をして、毎日来る。スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの合計を 350ｋｇにする。笑のステージを二段階上げる。(H・S)
・今年もＨさんの攻撃に負けない。毎日、笑って過ごす。これ以上、体重を増やさない。仕事の知識を増やす。(H・K)
・自分の人生で知らないこと、または興味のあることや新しいことがあるなら、常に責任とやる気を持って自分を向上していきたいです。(U・T)
・自分の適職のイメージを形にするために無理のない計画で学んで過します。(K・S)
・今年度内をめどに就職します。そのために体力をつけていきたいです。(H・T)
・仕事：確かな知識と豊かな経験で職域を広げていく。
生活：今年中に結婚をする。何か楽器を覚える。(H・Y)

・年末のピザパーティー・

リボーンでは 2016 年にも年末にイベントを行いました。今回は外出はせず、オフィスの中でピザパーティーを開催しました。

Ｋさんの指示のもと、鶏肉料理、パスタ、サラダ、デザート等豊富な料理を、響のキッチンで手分けをして準備しました。飲み物やメインのピザも、午前中に役割分担をして買い出しに行きました。

オフィスを通常の業務と違うレイアウトに模様替えし、和気あいあいとした雰囲気で 12 時過ぎから料理をいただきました。みんなで談笑しながら、お腹が一杯になるまで食事を堪能しました。

食事が終わった後には、ビンゴゲームをみんなで行いました。スタッフがそれぞれの感性を生かした景品を準備しており、非常に楽しい時間を過ごせました。

こういう手作りの楽しいイベントをこれからも続けていければと強く感じました。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 5682 号

第 10 回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時：　2017 年 2 月 28 日（火）16:00～17:00
場　　所：　障害者福祉センター　4 階　自立訓練室
内　　容：　当事者が語る②（うつ病）
個人面談：　※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先：　TEL　03−5963−6888　FAX　03−3906−9997

精神保健福祉研修

2016 年度、精神保健センターが行う「精神保健福祉研修」には、スタッフが積極的に参加。前期には 16 名、後期には 24 名が応募。そのレポートにズームインしてみた。

発達障害の理解

発達障害について原因や特性、起こり得る困難場面、医学的治療、対処法などを学べる貴重な機会であった。発達障害が世間に認知された歴史は浅く、世間一般の理解を進めるのはまだまだこれからという状況を知った。それでも、発達障害者支援法によって行政の窓口支援や障害基礎年金受給による支援の道が拓かれた事は、意義の大きさを感じる。

発達障害は、診断されていない人も含めると、全体の 1 割とも言われている。「障害」ではなく、「個性」という講演内容が興味深い。思い返せば、学生時代や成人後を通じて、「少し変わっている」「周囲から浮いている」と評される人は、集団内にある程度の割合で存在していたように記憶している。当時発達障害は現在ほど認知されておらず、そういった区分もされていなかったが、現在であれば「発達障害」と診断される人も含まれていた可能性がある。マイノリティーの個性に診断名を付けて「障害」とする風潮を感じることもあるが、多数の人と異なった感性(脳の構造上)を持ち生きづらさを感じる人のグループを区分して、その人たちの生きづらさを緩和するような配慮をする事は、社会にとって必要な事であろう。薬物治療だけでなく、環境調整により大きな効果が得られると知ったが、まさにそれが合理的配慮と言える。

(H.K)

「多問題家族への精神介入」について

第一部「介入のコンプライアンス」

23 条において現場の警察が関わるが、精神症状という背景がありその生活線上に自傷・他害行為がなされるということに関してすべての関係機関が了解しているわけではないと思われる。

やむおえない時の決定など単独では決して判断しない、行政としてあくまで中立的な立場で対応していくという話があった。3 件の事例を通じて行政という立場を踏まえたうえでの介入やコンプライアンス報告であることを強く感じた。

第二部「アウトリーチ支援を通しての介入方法」

「課題の解決に入院という形に頼らない」という方針であることを再確認した。事例を通して、あきらめずひるむことなく定期的にコンタクトを取っていくなど手厚いアウトリーチ支援体制の話を聞き、頭の下がる思いであった。しかし自分が携わっているケースにおいてのケア会議出席者が常に入院に頼らないという意識を持っているかどうか疑問である。問題が起こる前に早めの休息入院という形が多い気がする。報告書によるとアウトリーチ利用者の平均年齢50.8歳,同居家族がいる事例が64%,本人だけでなく家族にも課題が多くあるケースが多いのが分かる。現在の職務においてアウトリーチに関わることは難しいが、携わるケースにおいて常に「課題の解決に入院という形に頼らない」、私たち同様地域で生活する人として、一緒に考えていくという姿勢は意識していきたい。(S.S)

地域支える関係機関連携

今回の研修で一番意外に感じたのは、依存症治療において直面化は逆効果になるということだった。依存症治療で直面化という言葉はとてもよく聞くフレーズで、一般的な治療スタイルだと思っていたが、葛藤することが病気と聞き、最近の治療方針も改めて知識として入れておいた方が良いように感じた。スリップさせないために直面化は必要なことだと考えていたが、症状の表現として捉えるという考え方は自分になかったので、今回得られた情報は普段の業務の中でも意識して取り組んでいきたい。

そして、自分自身が依存症の方の経験が少ないせいか、今回の“関わらない口実”という話は、とても痛い話だった。経験がないというのは言い訳でしかなく、むしろその経験が出来るということを良い機会と視点が切り替えられることが今後の課題だと感じている。巻き込まれないための防御をするのではなく、その方といかに向き合って接することが出来るかが支援者に求められることであり、そこが自分の仕事だということを意識して、これからも日々の業務に活かしていきたい。医療観察制度で作成されるクライシスプランのことも初めて知ったので、忘れないうちに自分でも調べて、業務の中で活用できるように考えていきたい。(K.T)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5682 号

当事者の会　はるじおん
雑草魂パンジー号を発行！

当事者の会はるじおんから、通巻第 3 号となる雑草魂パンジー号が 1 月 21 日に発行されました。パンジーには「つつましい幸せ」という花言葉があり、雑草魂には何気ない毎日の中にある小さな幸せの種がたくさん詰まっています。ぜひご一読ください。

申込先　zassoudamashii2016@gmail.com
東京都障がい者就業支援事業所の会
当事者の会　はるじおん　事務局宛て
1 冊 250 円

「こんな事業をやろう！」で議論

社会的事業所モデル事業検討会

社会的事業所モデル事業検討会議が 1 月 21 日、名古屋・わっぱ共生共働センターで開かれた。

各地で仕事おこしの取組みがなされているがどこでも公的補助金に頼るところが多く、障害者福祉制度の枠を超え、さまざまな困難にあい働く機会のない人にどのように門戸を開いていくのか、なかなか事業収益による事業所の経済的自立は困難な状況にあります。そこで全国の共同連の各場が力を合わせて「こんな事業をやろう！」というモデル事業をつくろうとこの会議がもたれた。

熊本の企業組合エコネットみなまたの「水をまもる　人をまもる」事業や大阪箕面のちまちま工房が豆腐の移転に伴う「みんなのまち食堂」の夜の作業所の可能性、東北産の小麦とクッキーを使ったこっぺの共同セット、大阪高槻の介護保険や障害者総合支援法では手の届かない「まちの便利屋」をめざすコモンズ・ハートなどから体験報告があった。

またアジア交流の中から台湾の勝利財団のダイナミックな事例報告や全国各地の紹介やフランチャイズ制を活用する議論もあった。今後さらに議論を積みあげていくことを決めた。

また就労継続支援Ａ型事業は、障害者の「労働の可能性」を広げる有意義な制度だが、2 月 19 日には「愛知のＡ型・つながろう！ 」のシンポジウムがＡネットあいち準備会と NPO わっぱの会の主催で栄ガスビル 5 階で開かれます。

社会的連帯経済めぐって合宿

昨年、カナダのモントリオールでひらかれた GSEF2016 に日本の代表団を送った「ソウル宣言の会」が日本の社会的連帯経済めぐっての課題と問題点を議論する合宿を新春あけ箱根で行った。
世界 62 か国 330 の自治体と 9 つの国連機関、1500 人以上の市民組織が参加した中、日本の自治体の参加がなかったことを踏まえ、どのような運動の組立てをして社会的連帯経済の経済圏を創っていくのか、多様な議論を行なって 2018 年のスペインバスクのビルバオへの参加をめざすことになった。

---

1 月はたらっくす報告

1 月のはたらっくすは 14 日（土）の 16～18 時まで行われ、2 名の参加でした。最近、私が働く中で痛感するのは「やはり歳ってあるのかな」という事です。20 歳代後半から 15 年働いたスーパーで上司から言われたのは「一般就労するのなら 36 歳までにしなさい。歳を取ると体力がなくなるから。」という事でした。今、私は 50 歳になり体力どころか、活動をリタイアしても良いかな、と考えている程です。60 歳になると定年になり仕事がなくなり「定年制度がない作家は良いな」と世間では言われたりしますが「定年の歳になると、ちゃんと身体が書けなくなる様に出来ている」という作家の独白を読んだ事があります。社会制度は上手く出来ているのです。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5682 号

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 1 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 5682 号

私のグループ経験

私は人間性心理学研究の下田節夫先生のどのグループに参加したことも、グループでファシリテーターをしたこともない。まして、エンカウンター・グループに参加したこともない。しかし、現在の勤務先でメンバーの皆さんと行うグループワーク、SST、集団認知行動療法を行っていく中で、そのグループの動きというか、そのグループに関わることが非常に楽しいものだと感じることがよくある。むしろ、メンバーの方からは「一番楽しんでいるじゃないですか」と指摘されることもしばしばある。

私が日頃から行っているグループワークはオープンな構造で、その日その時で参加される方が異なる。もちろん、一貫して出られている方もいれば、スポット的に参加される方もいる。このメンバーの参加の仕方自体もグループには影響するように感じられる。

例えば、SST では毎回の流れが決まっていて、まずはその日のストレスチェック、ご自身の過去の経験の振り返り、経験を KJ 法を用いて 1 枚の模造紙にまとめ、その後、ロールプレイングをする。毎回参加されている方であれば、この流れを知っているので、どこか余裕を感じられることがあり、初めての方は、顕著にストレスチェックの点数が高かったりする。

また、KJ 法を用いてメンバーさんの経験を一つの模造紙にまとめる過程があり、ここでは参加回数に応じて、グループへの関わり度が異なってくる。やはり、初めてだと発言のしづらさを感じるのだろうか、遠巻きに眺めているだけであったり、他のメンバーからの質問に一言ポツリと返答するだけであったりする。私がいつも楽しみを感じているのは、このような方が継続的にグループに参加して、どのような変化が見られるのかということである。グループには個人を変化させるのか、個人の見方を変化させるのか、また両方の力を持つのだと思う。上手な表現が思いつかないが、グループの力動というものは粘土をこねくり回しているみたいなものではないだろうか。最初は曖昧であった輪郭が、徐々に明瞭になっていって、一つの形態を形作る。それは視点によって、どのようにも見ることができる。グループにはこの形作っていく機能と、様々な視点を与える機能があるのではないだろうか。

私の少ないグループ体験で特に印象深いのは、グループに参加して２～3 ヶ月は、無言で遠巻きに見ているだけのメンバーの方が徐々に自分の役割を見つけながら、グループに関わっていき、最終的にはユニークを交えながら、参加できたことである。なんとなくだが、その方の輪郭が垣間見えたような感じ出る。その姿を見せることが良いことなのか、悪いことなのか、私にはわからないが、何かしらの変化があった、もしくは視点が提供されたのは間違いないのだと思う。

本論文でもグループを作っていく過程で、自分自身の内面に目が向く、人のことに関心が向く・理解したいと思う、可能性を生きる意味について述べられているが、先に挙げたメンバーもグループで自分と他人との関係性から自分自身を出してもいいという気持ちに少なからずなったのではないかと思われる。

また、本論文で紹介されている言葉に「全員が無関係ではないような姿勢であることが、独特の空間を作り出していたことに重要な意味があると思われる。」という一節があったが、その通りだと感じた。実際、私も大学院生時代にある病院のデイケアに実習に行っていた時、実習最終日のお昼休みに自然とグループができて、誰しもが安心して、私もそのメンバーの一員になったような経験がある。誰しもが、一人一人の語りに耳を傾けて、無言になってもなんとなく良い感じだった。この時間がずっと続いたら良いのにと思ったくらいである。この言葉や文字では表現できない、なんとなく良い感じというのが、グループの持つ力なのかもしれない。

（H.S）

私の師書

下田節夫　2016「グループから学んで　ーベイシック・エンカウンター・グループで起きることとスタッフのあり方について」　人間性心理学研究第 34 号 1 号

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 1 月 29 日発行　SSKU　増刊通巻第 5682 号

母が言っていたこと（2）

リボーンプロジェクトＯＢ　うこっけい　作

無理せず　少しだけ　頑張ってみよう
不平を鳴らすのは　人の倍努力してるからだ
不平は敵をつくり　感謝は味方をつくる
お陰様と言う　感謝の心
お互い様と言う　助け合いの精神
苦しみがあるから　神仏を信じる
謙虚にもなる　幸せも感じる
ちょっと一休み　頑張るのをやめた時
見えてくるものも　あるよ
いいかげんより　良い加減
バランスを保つのが　大事だよ
職場に　愛社精神ある？
仕事に　野心はある？
前向きな人の（もと）には　友達が集まる
直（ひた）向きな人の下には　神様が集まる
挨拶は大いにやろう　タダでできて　資格も要らない

誰にでもできて　元手がかからず　それでいて効果抜群
逃げるが勝ち　適所って　あるんだよ
魚は陸では生きられない　水を得た魚って　本当だよ
鈍才君が　一番しぶといんだよ
心を病んでも　五体満足
人間生きていれば　悪いところ
一つくらいあるよ
無病息災より一病息災　一病で厄落とし
病気があることで　体に気をつける様になり
かえって　健康になる
立派な人って勉強が出来るとか　力が強いとか
お金があるとかではない　赦（ゆる）しのある人だよ
赦すとは心の広さ豊かさ　人としての器の大きさだよ
「幸せ」とは人の役に立っている
自分の存在の肯定にあるもの

就労支援センター北わくわくかん

登録者　（2016 年 12 月末）　650 名
就職者　４名(清掃、ドライバー助手、軽作業、生花販売・管理・事務)

先月　ご協力いただいた皆様

・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉障害者センター・ハローワーク王子・池袋・東京障害者職業センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・北区身体障害者協和会・北区聴覚障害者協会・北区肢体不自由児（者）父母の会・北区手をつなぐ親愛の会・北区生活と健康を守る会・北区障害者福祉協会・NPO 法人つみき・社会福祉法人あゆみ・公益社団法人発達協会・社会福祉法人ささんかの会・NPO 法人飛鳥会・北区肢体障害者協会・北区身体障害者自動車会・あすなろ福祉会・東京都精神障害者家族連合会・つばさ工房・第二ワークインあすか・たいよう事業所・区役所自主製品販売会・あいアイ工房・たばた福祉作業所・飛鳥晴山苑
他、多くの方に協力いただきました。

グループホームわくわくかん

現在、男性１名、女性４名の方が入居中です。男性ホーム一部屋が３ヶ月空いていましたが､わくわく配食サービスのメンバーＨさんに入居していただけることになりました。

Ｈさんは体験時からやる気をみなぎらせ、日程が決まる前に突然宿泊荷物を持参し、世話人を動揺させたほど。入居中のＳさんは、今まで見学に来た方たちが自分と同じようなダンディなおじ様が多かったこともあり、年若い新ルームメイトが決まりホッとした様子。カワイイ後輩ができ嬉しそうです。そして男性世話人のＦさんは、本人のやる気を汲み取り１日も早く入居出来るよう、急な休日出勤をして、ホームの掃除から契約までを一人で対応。グループホームは新年とともに、新しい仲間の歓迎で華やいでいます！

▼編集後記▼

岩手県の重茂（おもえ）漁協の創立 50 周年記念誌『天恵戒駿の系譜』がでた。東日本大震災の記録と副題されているように、この漁協は 40m の津波に襲われた。漁船総数の 814 隻のうち 16 隻を残して 798 隻が被災、貯蔵・作業・定置網施設はほぼ全壊、わかめ・昆布などの施設も流出した。3.11 から 1 か月、組合員全員協議会で伊藤隆一組合長は「船のあるものとないものとで不平等はおこさない、重茂の船は漁協が管理して共同利用（シェアリング）し収益も公平に分配する」と提案、5 月のわかめ漁までに中古船 80 隻を集めた。大震災復興には 10 年間で 32 兆円が使われる見込みというが、地域の人々の仕事の再建を身近な人々の協働の力で行うか、それとも政府や県が拠点港にしぼり重点的に行うかで決定的な違いがある。前者を岩手方式、後者を宮城方式とよぶそうだ。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円(会費に含む)